


令和4年度 そば栽培指針

(共通注意)
 施用量、使用量は、すべて10a当たりで表示している

飯島町営農センター
 J A 上伊那

適期播種・適期収穫・排水対策による安定生産と需要に応じた計画生産を！！

作業暦	7月			8月			9月			10月			11月			12月																																			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																	
【収量目標】 70kg/10a 土づくり ○土壌分析(pH、ECは必須) ○石灰施用 ○排水対策 畦畔管理	は種 ← は種・出芽 → 開花期 → 開花盛期 → 成熟期 → 収穫 ← 畦畔管理 →																																																		
作業項目	栽培上の注意									作業項目	10a当り使用量、回数、及び栽培上の注意																																								
1 種子の準備	品種	・蕎麦信濃1号(秋そば) 奨励品種編入年次 昭和19(1944)年 千粒重 30.1g は種期 8月5日 開花期 8月30日 花色 白 長野県野菜花き試験場 成熟期 10月11日 果皮色 黒褐 (塩尻市宗賀・標高750m) 草丈 115cm 品質 中上 平成18～令和元年平均値									5 雑草防除	①耕起前又はは種前雑草茎葉散布	一年生及び多年生雑草	ラウンドアップマックスロード 200～500ml+水50～100ℓ(使用回数2回以内) 少量散布の場合は200～500ml 水25～50ℓ 専用ノズルを使用すること。																																					
	粒選	・異品種混入防止のため、購入種子を使用する。										②生育期雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草(スズメカタビラを除く)	ナブ乳剤 150～200ml+水100～150ℓ(イネ科雑草3～5葉期、収穫30日前まで、使用回数1回)																																					
2 は種	播種期	秋そば 7月下旬～8月中旬 (注)秋そばは成熟期前に初霜に遭わないようには種期を決めるが、早まきすぎると結実が悪く、草丈が伸びすぎて倒伏し易くなる(初霜日の70日前頃が適期)。									※播種前までに最低2回は耕耘して、雑草を鋤き込むとともに十分に碎土しておく！ (経費削減等の点からも、耕種的方法による雑草防除を基本とする。)																																								
	は種量	<table border="1"> <tr> <th>標高</th> <td>900m以上</td> <td>800m</td> <td>700m</td> <td>600m</td> </tr> <tr> <th>は種期</th> <td>7/25～8/5</td> <td>7/30～8/10</td> <td>8/1～8/12</td> <td>8/1～8/15</td> </tr> </table> 10a当り 4～5kg程度(は種量が多いと倒伏しやすい)									標高	900m以上	800m	700m	600m	は種期	7/25～8/5	7/30～8/10	8/1～8/12	8/1～8/15	適用病害虫(防除時期) 薬剤名 10a当り使用量、時期、回数 経費削減等の点からも、耕種的方法による防除を基本とする。																														
	標高	900m以上	800m	700m	600m																																														
は種期	7/25～8/5	7/30～8/10	8/1～8/12	8/1～8/15																																															
栽植密度	・条播 畦幅70～80cm、まき幅15～20cm ・シーダー播 30cm、覆土は2cm位 ・散播 は播後ロータリーで浅くかく拌									ハスモンヨトウ エコマスターBT 2,000倍、発生初期、収穫前日まで、100～300ℓ																																									
3 ほ場準備	耕起・碎土	堆肥1,000kgを全面散布しロータリーで耕起する。									7 収穫・調製	収 穫	10月中旬～下旬 成熟期は全体の子実の70%前後が黒変した時期だが、50～60%が黒変した時期から収穫が可能である。そば群落の黒化率は主茎先端の集合花房(下図)の黒化率で判定する。(通常はは種後70日前後) <table border="1"> <tr> <th>刈り取り方法</th> <th>刈取り時期</th> </tr> <tr> <td>専用コンバイン</td> <td>黒化率80%程度(開花盛期後の積算気温450～500℃)から収穫を開始する。</td> </tr> </table> (注)成熟期を過ぎると自然脱粒や刈取損失が多くなるので、適期刈取に努める。									刈り取り方法	刈取り時期	専用コンバイン	黒化率80%程度(開花盛期後の積算気温450～500℃)から収穫を開始する。																										
	刈り取り方法	刈取り時期																																																	
専用コンバイン	黒化率80%程度(開花盛期後の積算気温450～500℃)から収穫を開始する。																																																		
施肥	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">施用量</th> <th rowspan="2">基肥</th> <th rowspan="2">追肥</th> <th colspan="3">成分量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> <tr> <td>堆肥</td> <td>1,000 kg</td> <td>1,000 kg</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3">炭酸苦土石灰を100kg入れる。</td> </tr> <tr> <td>BB372</td> <td>20</td> <td>20</td> <td></td> <td>2.6</td> <td>3.4</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.6</td> <td>3.4</td> <td>2.4</td> </tr> </table> (注) 1. 水田転作の1作目は地力窒素が出るから、窒素は控えめに施す。 2. 酸度矯正はpH6.0を目標とする。 3. 湿害対策:水田転換畑では必ず排水溝掘りを行う。									肥料名	施用量	基肥	追肥	成分量			備考	N	P	K	堆肥	1,000 kg	1,000 kg					炭酸苦土石灰を100kg入れる。	BB372	20	20		2.6	3.4	2.4	計				2.6	3.4	2.4	刈り取り方法 刈取り時期 専用コンバイン 黒化率80%程度(開花盛期後の積算気温450～500℃)から収穫を開始する。								
肥料名	施用量	基肥	追肥	成分量			備考																																												
				N	P	K																																													
堆肥	1,000 kg	1,000 kg					炭酸苦土石灰を100kg入れる。																																												
BB372	20	20		2.6	3.4	2.4																																													
計				2.6	3.4	2.4																																													
排水対策	排水対策は暗渠、補助暗渠、排水溝を組み合わせ周到に行う。さらに必要なら高畦にする。									乾燥・調製	乾燥・調製	乾燥:生脱穀物を唐箕で粗選し、乾燥機、むしろ干し等で子実水分15%まで乾かす。過乾燥は風味をなくすので注意する。 調製:唐箕選により、屑、未熟粒、異物等を除去し、1袋23kgに包装して出荷する。 *調製はJA等の共同選別施設を利用する。																																							
4 管理	中耕培土	畦幅70～80cmの条播きの場合 開花前に培土板をつけた管理機等で中耕培土を行う。										 図1:主茎先端の集合花房																																							